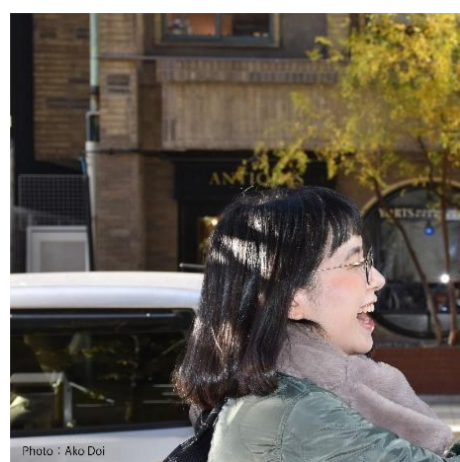


参加アーティストご紹介

広島出身・在住など、広島にゆかりのあるアーティスト達がウォールアートを描きます。
残り1名は完成までのシークレット画家として製作完成後、発表いたします。



土井 紀子 1997- 版画家・アーティスト DOI KIKO

1997年山口県生まれ。2000年-2003年アメリカバージニア州で育つ。現在、広島市立大学大学院芸術学研究科博士後期課程に在学中。2021年-広島市立大学芸術学部版画工房ティーチング・アシスタント。近年は主に影などの瞬間的な現象を題材とした絵画作品やシルクスクリーン作品を制作。主な展示に第45回三菱商事アート・ゲート・プログラム(MC FOREST/東京/2019)など。「アートルーム 海の部屋」(ル・ポール栗島/香川/企画:瀬戸内アートコレクティブ 協力:TAMENTAI GALLERY/2020-)など。



若佐 慎一 1982- 美術作家 WAKASA SHINICHI

1982年広島生まれ。広島市立大学大学院修士課程修了。大学で日本の伝統画法を学び、卒業制作を同大学の首席に当たる「買い上げ」となる。卒業後、月刊美術主催公募展「デビュー」にて準グランプリ受賞。日本の風土と宗教観をテーマに、漫画やゲーム、アニメの特徴とされる要素を作品内に取り込み制作する。活動は国内外問わずその場を広げ、京都伝統工芸の「長艸繻巧房」に原画提供や、NYのファッションブランド「sawataikai」、アイドルグループでんぱ組.incの相沢梨紗が手がける「MEMUSE」とのコラボ、そして、メディアアーティスト落合陽一、デザイナー串野真也と共にファッションブランド「凄い若い」を立ち上げるなど多岐にわたる活動を見せる。近年は横浜駅直結の複合型エンターテインメント施設「アンビル」で巨大壁画を制作、設置をする。



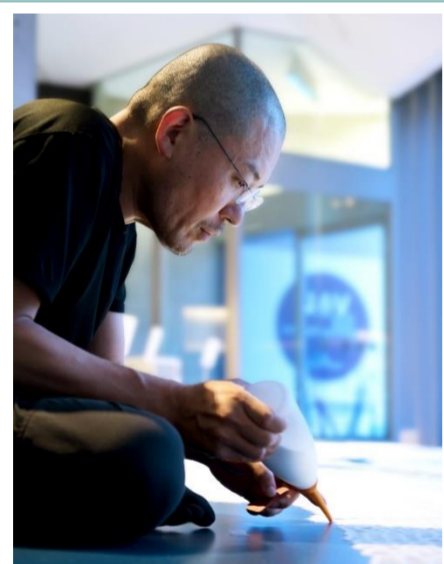
SUIKO 1979- アーティスト

書道に影響を受けた躍動感・生命感のある独自のレタリングを得意とする、広島を拠点としながらも世界各国に巨大な壁画を出現させるグラフィティ・アーティスト。2005年に水戸芸術館で開催された国内初の大規模なグラフィティの企画展「X-COLOR」に参加後、活動規模を拡大、アメリカ、ドイツ、フランス、ブラジル、イスラエル、トルコ、ギリシャ、ネパール、インド、タヒチ、オーストラリア、中国、香港、韓国など様々な国から招待を受け10カ国以上に赴く。また壁を媒体とした表現にとどまらず、Walt Disney社、コカ・コーラ社、アディダス社、ECKO unLtd.社などへもアートワークやデザインを提供するなど様々な方向に表現領域を広げ続ける。



田中 美紀 1981- ビジョンプロジェクト TANAKA MIKI

金沢美術工芸大学美術科油画専攻を卒業後、ディスプレイ業に6年間従事。地元百貨店のウィンドウディスプレイの監修も経験する。絵を描くことに迷い、白いキャンバスに向かうことが辛い期間が長かったが、ある時、不慮の事故で夢を封印してしまった男性に、その夢を絵にして贈ったことをきっかけに『誰かの大切な想いの為なら絵を描くことができる』ことに気づく。以来、経営者を中心に、依頼主のビジョンを絵画にすることで、社会を元気にする事業を開始。『ビジョンプロジェクト』という屋号で、思考を視覚化するコンサルタントアートサービスとして活動を続けている。



山本 基 1966- 現代美術作家 YAMAMOTO MOTOI

1966年広島県尾道市生まれ。1995年金沢美術工芸大学卒業。現在、金沢市在住。若くしてこの世を去った妻や妹との思い出を忘れないために、浄化や清めを喚起させる「塩」を用いたインスタレーションを制作。床に巨大な模様を描く作品は長い時間を掛け、一人で描き上げる。展覧会最終日には作品を鑑賞者と共に壊し、その塩を海に還すプロジェクトを実施している。また、緻密なドロ잉や壁画の他、近年は企業とのコラボレーションも手掛けるなど精力的に活動を展開している。ニューヨーク近代美術館 MoMA P.S.1、エルミタージュ美術館、東京都現代美術館、箱根・彫刻の森美術館、金沢21世紀美術館、瀬戸内国際芸術祭、広島県立美術館等、国内外で多数発表。



三椏 正典 1960- 美術家 MIMASU MASANORI

現在「ジャパニーズ・モダン」をテーマに表現活動を行っている。
1992年日仏現代美術展（フィガロ賞）1994年広島市現代美術館公募「広島美術」（大賞）
1995年第24回現代日本美術展（賞候補）
1999年～2001年日本各地において約2000脚の椅子を並べる「ホワイトチェアプロジェクト」を展開。
2011年茶室にて襖絵・掛け軸作品を製作、大徳寺（京都）浄土寺（尾道）など今日まで多くの寺社や茶室で展開している。



毛利 まさみち 1946- 切り絵・絵本作家 MOURI MASAMICHI

40歳の頃から切り絵手法を独習し、我が子の誕生日プレゼントとして始めた手作り絵本が、『日本の絵本賞・手作り絵本コンテスト部門』で文部大臣賞、全国学校図書館協議会賞、読売新聞社賞などを受賞。1994年『手作り紙芝居コンテスト（秋田県旧・峰浜村主催）』で最優秀賞受賞。1988年『第11回日本の絵本賞新人賞部門』で「ももの里」が新人賞(佳作)受賞。著書・作品に「毛利まさみち切り絵えほんシリーズ=全3巻」(汐文社)、「ももの里」(リブリオ出版)、「おさんぎつね」(農文協)、「鬼ガ山」(絵本塾出版)、「原爆の火(文・岩崎京子)」長編ファンタジー小説「青の森伝説」、「青い空が繋がった」(以上新日本出版)などがある。



三浦 恒祺 1930- 洋画家 MIURA TSUNEKI

8月6日、15歳の時に爆心地から4キロ離れた横川付近で被爆。死ぬまで被爆体験が脳裏から離れることはない、原爆の惨禍を油絵で描き続けている。被爆体験を何とか絵にしたいとキャンバスに向かったが、余りにも残酷すぎて私の画才では表現不可能だった。しかし、全国の被爆者との交流により刺激を受け「原爆の形象」の連作に取り組み始めた。「諦めるな、光に向かって這っていけ！」その思いから破壊からの復活を願って画面に輝く太陽と光を入れた作品を近年描いている。これからも生ある限り描き続けたいと思っていますー。